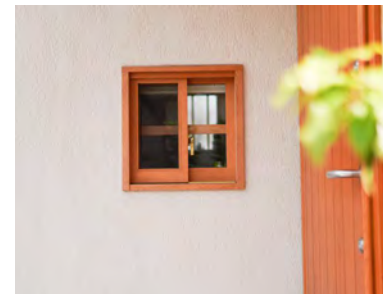




特集 その後どのように暮らしていますか？

優しい光と緑に溢れる「かどにわハウス」



特集 その後どのように暮らしていますか？

優しい光と緑に溢れる「かどにわハウス」

東京都 | 木造一戸建て(建築家と建てる家) | 1 邸(ご夫婦+お子様2人)

1 ストーリー

満開の桜に賑わう公園を抜けて、小さな畑や直売所があるのどかな住宅地へ。可愛いテラコッタ色の屋根を目指して歩いて行くと少しずつ見えてくる、“かどにわ”の木々たち。芽吹き始めた色とりどりの草木や板張りの明るい壁が春の陽を受けて、まるでこの一角だけふわっと浮かび上がっているような、そんな軽やかな印象を受けました。

この素敵な住まいに暮らすのは、4人家族の様。2人目の

お子様が生まれるタイミングでのびのびと子育てができる住まいを、と考え家づくりを始めました。「もともと戸建を建てたい派で。地域の建築家を探さず、まだ設計室の島田さんを知りました。HPの『大事にしていること』に共感して、ぜひ頼みたいな」と奥様。島田さんに依頼する前提で、土地探しやライフプランを島田さんと相羽建設に相談しながら進めていきました。

この土地を選んだ決め手は、大きな公園が近かったこと。「大きな芝生の庭」への憧れもあったけれど、そのスペースを確保するのはなかなか難しい。でもこの距離なら、“公園が大きな庭”のようです。“かどにわ”もあるので、庭が2つありますね」と笑うご主人。こだわりが詰まった住まいの住み心地や現在の暮らしぶりを伺いました。

2

庭を中心に広がる 家族のスペース

落ち着いた雰囲気玄関からリビングへの扉を開けた瞬間、真上の吹き抜けからの光と“かどにわ”の緑に目を奪われます。

「季節を感じられる住まい」というご夫婦の希望を受けて島田さんが考えたのが“かどにわ”を包むようにリビングダイニングを配置したプラン。「庭に面した大きな窓の前にニーチェアを持ってきて、ゆっくり刺繍をする時間が好きです」と奥様。優しい日差しと庭の緑が穏やかな時間を生み出してくれます。

そしてもう一つの希望が「カウンターキッチン」。共働きで忙しいため、家事をしながらお子様の様子を見守れるようにという要望からでした。視線を合わせるためにキッチンに合わせて机を高くするのはなく、キッチンを掘り下げること、お子様も座りやすく、距離も近くに。「キッチンが下がることで、視線の抜けができ、空間が広く見えるんです」と島田さん。島田さんデザインのダイニングテーブルは縦に二つにわかれ、横につなげればカウンターにもなる仕様。気分や用途に合わせてレイアウトを変え楽しんでいらっしやいます。



リビング奥の落ち着いた空間にはご主人希望のペレットストーブも。



1. 光が溢れる明るいリビング。2. お子様と視線があい、会話も弾みます。3. ゆったりとした背面カウンター。4. 玄関横の小窓で外の気配が伺えます。5. あえてソファは置かず、窓を大きく。緑側のような窓枠に腰かけるのがお気に入りです。



3 住まいのみどころ



1.ウッドデッキは第二のリビングのよう。2.塀がないことでとても開放的な景色に。3.印象的な“かどにわ”の風景。「庭の塀がない家は珍しいので、通る人がびっくりにして振り返られますね」と奥様。



外に開かれた “かどにわ”

当初は板塀で庭を囲う予定でしたが、植栽で緩やかに囲まれた雰囲気
が気持ちよく、思い切って無くしました。「休日午前は子どもとデッキで遊ぶ
のが日課になってますね。庭にいと近所の人が声をかけてくれて、それ
も楽しくて」と話すご夫妻の笑顔から、充実した毎日が伺えました。

落ち着いた雰囲気の 個々の居場所



子ども部屋やキッチン横のスタディスペースなど、個々の居場所は
明るく開放的なリビングと対照的に、少しもって落ち着いた雰囲気。
入居直後からコロナ禍によって自宅でのテレワークが多くなり、思い
がけずスタディスペースが活躍しているとのこと。



1.横並びで使用しても十分な広さのスタディ
スペース。2.R天井が印象的な子ども部屋。今
後お子様の成長に合わせて間仕切り予定で
す。3.4.吹き抜けに面した来客用の和室。



取材後記

「以前の住まいでは周囲への配慮から思い切り遊ぶことが難しかったのですが、この家で子どもがのび
のび遊んでいる姿をみて、家づくりをして本当によかったなと思ってます」と奥様。外出自粛期間中もお家
あそびを十分に楽しめたとのこと。またご主人は「今後は音響などにもこだわりたいですね」とのこと。ま
ずまずお家の時間が充実しそうですね!ご協力ありがとうございました!(記:猪股)

設計:しまだ設計室(島田貴史) <http://kazunoki.com/> 施工:相羽建設
撮影取材・編集:島田(しまだ設計室)・新・伊藤・猪股(相羽建設)
ainohaバックナンバー <http://aiibaeco.co.jp/100story/liife/>



しまだ設計室



100life



島田さんも取材に参加いただきました!

特集 その後どのように暮らしていますか？

趣味の時間を吹き抜けがつなぐ家





特集 その後どのように暮らしていますか？

趣味の時間を吹き抜けがつなぐ家

埼玉県所沢市 | 木造一戸建て(建築家と建てる家) | S邸(ご夫婦)

1 ストーリー

今回ご紹介するのは、取材日に1年点検を行ったS様ご夫婦の住まい。日当たりが良く、お庭の植栽が馴染んでいます。ジューンベリーの実を採ったり紅葉を眺めたり、家庭菜園をしたりと、四季の移り変わりを満喫。ご夫婦ともに趣味を多くお持ちで、刺繍など手仕事が好きなお様が新聞広告で見かけた「つむじ市」をきっかけに相羽建設と出会いま

した。家づくりの予定はありませんでしたが、会場のモデルハウス「つむじ」を訪れて「これから住みたい空間が見つかったんです」と奥様。OMソーラー※も決め手に。慣れ親しんだ所沢で土地探しからスタートしました。相羽建設や建築家の事例を探して、理想とする住まいのイメージに近

かった建築家の島田貴史さんに設計を依頼することに。S様ご夫婦の今後の楽しみが詰まった住まい。そのみどころや現在の暮らしぶりを伺いました。

※OMソーラー：太陽熱を暖房に利用するソーラーシステム



2

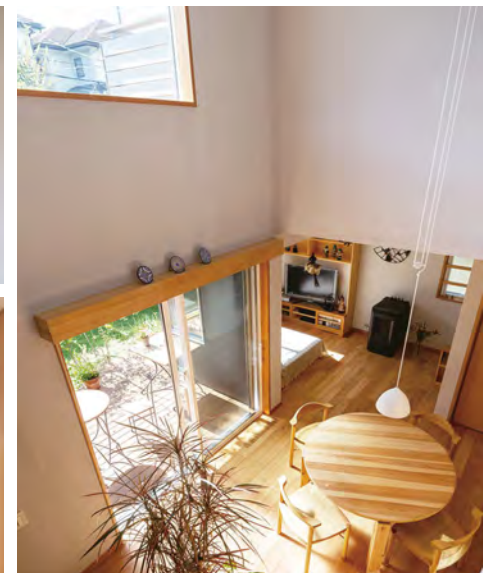
温もりと距離感が 居心地の良い空間

吹き抜け空間やテラスデッキを、籠もれる趣味のスペースや個室が囲むS様邸。島田さんが「1階だけでも暮らせるように」と将来も踏まえて提案した当初の案から、ほぼ変わりません。変更はリビングの畳をなくした事。その代わりに置いた、足を投げ出してくつろげる島田さんオリジナルのソファにゴロンとなり、テレビを見るのが奥様お気に入りです。窓はソファの背と同じ高さで、座っていてもお庭を大きく眺めることができます。日当たりの良いお庭では、ご主人がハツカダイコンやサニーレタスなどをプランターで栽培。収穫した野菜が食卓を彩ります。また、寒かったという前の住まいとは打って変わって、OMソーラーやペレットストーブのお陰で、冬も暖かく快適にお住まいだそう。ペレットストーブは、別の楽しみにも活躍。上部にヤカンを置いてお湯を沸かすと、熱燗をつくるのにちょうどいい温度になるのだとか。他にも、壁裏の柱に打たれた釘を探して磁石で物を飾るなど、暮らしをより豊かにする工夫がたくさん。ものづくりがお好きなS様らしくお住まいです。



「しまだ設計室」の島田貴史さん

- | | |
|---|---|
| 1 | 1.凹みがあるリビングダイニング。2,5.吹き抜けからも陽が入ります。3.ペレットストーブはshimotani「concord ALCOTT」。4.キッチン脇には柿渋和紙が。 |
| 2 | 3 |
| 4 | 5 |





3 住まいのみどころ



1.広い玄関とつながるアトリエ。照明はガラス作家・大谷佳子さんのもの。2,3.奥様の刺繍作品。4.色とりどりの刺繍糸の中から、図案に合わせてセレクト。5.刺繍をなさる奥様。

▲ 刺繍に打ち込める アトリエ

将来、奥様がワークショップを開くこともできるよう、外に開けるような造りになっています。中央には、相羽建設でオーダーした大きなテーブルが。「作業の途中で片付けずに、家事ができるのがいいですね」と話す奥様の笑顔から、充実した毎日が伺えました。

2階も趣味が 彩ります



1.吹き抜けに面したギャラリーホール。2.ご主人の部屋は工作や無線など、多くの趣味が詰まっています。3.娘さんの部屋には、希望のハンモックを設置。4.ご主人作の棚



取材後記

奥様の作品やご主人お手製の棚や道具入れなど、置物にも見どころがたくさんS様邸。取材日には1年点検もあり、大勢でお邪魔しましたが、「大工の手」※でプレゼントさせていただいた丸テーブルが大活躍！美味しい手料理をご馳走様でした。（記：ライター大川）
※大工の手：大工が誠実な素材を使ってつくる家具。家と一緒に永く愛着をもって使ってもらおうという思いが込められています。



設計/しまだ設計室(島田貴史) <http://kazunoki.com/>
施工:相羽建設/撮影取材・編集:伊藤・吉川・大川・猪股/写真:西川公朗
ainoha/バックナンバー <http://aibaeco.co.jp/100story/life/>



階段を上った先に広がるギャラリーホール。ご夫婦が集めた骨董やアートを天窗からの明かりが優しく照らします。天井のカーブや額の収納棚などは島田さんからの提案。奥に続くご主人の手がたくさん入った部屋は、秘密基地のようにワクワクする空間です。

1	2	3
2	3	4

特集 その後どのように暮らしていますか？

小さな森のある緑色の家



特集 その後どのように暮らしていますか？

小さな森のある緑色の家

東京都府中市 | ネストハウス(木造一戸建て) | S邸(ご夫婦+お子様2人)



1

ストーリー

大小さまざまな種類の植栽がまわりを彩る、4人家族のS様の住まい。立派に育ったジュンペリーの葉がそっと覆う2階バルコニーからの眺めは、まるで木の上に暮らす鳥たちと同じ景色を見ているかのようです。住みはじめてから3年、家づくりのキッカケとその後の暮らしぶりを伺いました。

「以前はマンション住まいでしたが、子どもたちも遊び盛りになってきたので、周囲に気を使うことなく走り回れる戸建てに住もうと決めました。せっかくなら自然が多い場所に住みたくて、八ヶ岳や高尾の土地も探したんですけど、通勤を考えると現実的じゃなくて……。そんな時に畑に囲まれたこの土地を見つけて、その日に「ここにしよう！」って決めました。」





▲ S様の持ち物に合わせて計画された、たっぷり入るキッチン収納

2 家づくりを思い描く

「駅までの通勤途中にすごく素敵なおうちがあるねって夫婦でよく話していて、それがこの家[※]を設計した島田さんのご自宅でした。ちょうどイベントがあったので参加したらとても魅力的なおうちで……!さっそくプランをお願い

することにしたんです」。家事動線や収納のこと、趣味のこと……。家族の暮らしに合わせた可変性や回遊性ある間取りの工夫を取り入れながら計画された家づくり。そして「森の中にあるような樹々に囲まれた家に住みたい」と

いう奥様の希望から、ジュンペリーの木をシンボルツリーとした小さな森のある家が完成しました。「夏は窓をあけると風が抜けて涼しいし、冬は2階リビングだから日当たりが良くて、とても居心地が良いですよ」とにっこり。

※しまだ設計室:島田貴史さん





特集 その後どのように暮らしていますか？

仲良し家族が暮らす「カエデハウス」

東京都小金井市 | 木造一戸建て | 1 邸 (ご夫婦 + お子様2人)



1

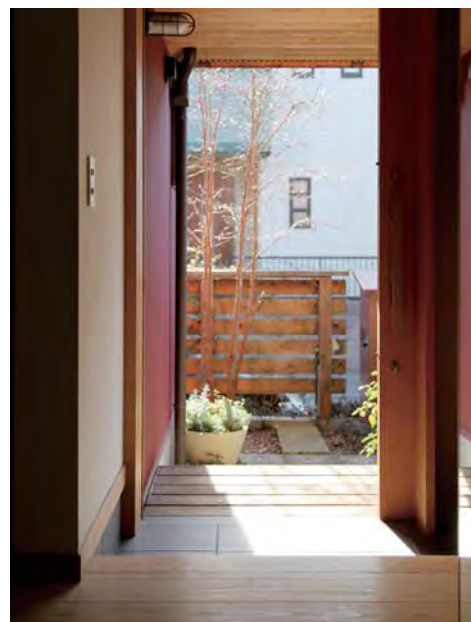
ストーリー

よく晴れた青空の下で、よりいっそう引き立つ素敵な赤い外観。こちらは暮らしはじめてから5年ほど経つ4人家族の1様のお住まい。今回は設計を担当した「しまだ設計室」の島田貴史さんと一緒に、1様の暮らしぶりについて伺いました。「カエデハウス」と名付けられたこの家は、カナダ留学中に会ったというご夫婦のお話を聞いた島田さんが、カナダ国旗のモデルの紅葉したカエデをイメージして設計されたそうです。「赤ってなかなか冒険色ですが、お話をしていてこのご家族は可愛らしいイメージが似合うと思って提案しました」と島田さん。

2

ちょうど良い距離感

I様と島田さんの出会いは、たまたまお子様が同じ時期に同じ保育園に通っていたことから。「最初は普通のパパ友達だったんですけど、ある日保育園に小屋がつくられ、それを島田さんが設計したと知って、はじめて建築家として意識するようになったんですよ」とご主人。ちょうどその頃、賃貸から新築への住み替えを考えていたことや、島田さんの人柄の良さ、自然素材の木の家の雰囲気にも惹かれていたことから、I様の家づくりがはじまりました。当時の主要要望としては「部屋はあまり区切らなくても良いので、広い空間にしてほしい」ということ。そこからプランを練り大工さんの造作や工夫を取り入れながら、2階リビングを中心としたキッチンや書斎、ダイニングルームやバルコニーなどそれぞれの空間が程よくつながる住まいが完成しました。「実際に住んでみて良かったのは、みんな2階リビングに集まるので、過ごす部屋は違っても家族がいつも一緒な感じがあるんですよ。それぞれがちょうど良い距離感なんです」。



▲ カエデハウスを設計した「しまだ設計室」の島田貴史さん



3 暮らしの工夫



写真上：シンク下のスライド式ゴミ入れ
写真下：キッチンと書斎をつなぐ小窓



▼ 家の食器のほとんどが、奥様のお姉さまがつくったという陶芸作品。

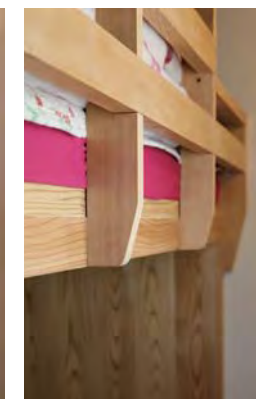


みんなの顔が 見えるキッチン

たくさんの収納スペースがある対面式のキッチン。シンク下には袋をフックに掛けて使う、スライド式の便利なゴミ入れも。また、去年新しくオープンを設置したそうで、この日はI様お手製クッキーをごちそうになりました。キッチンからはリビングダイニングを見渡せ、お料理をしながら家族との会話も楽しめます。

家具で仕切る 子ども部屋

「子どもの成長に合わせて1つの部屋を2つに仕切れるように」と、島田さんが家づくり当初から提案していた造作間仕切り計画。新築から5年が経ち、子どもたちも成長したことから去年プチリフォームを行い、ベッドと収納付きの姉弟それぞれの部屋が完成しました。



before



1階
子ども部屋

◀ 上部がベッド、下部が収納スペースになっている造作家具空間。安全面を考えて角を丸くしたり、大人が上っても安心な強度。

取材後記

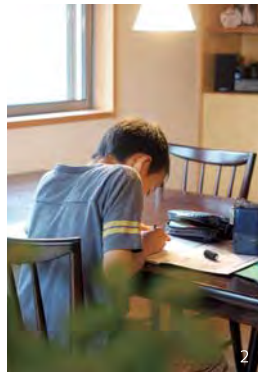
本当に仲の良いI様ご家族。ちょっとした時間でしたが一緒に過ごさせて頂き、こちらも幸せな気分になりました。何気ない日常の中で島田さんと出会い、はじめた家づくり。今でも家族ぐるみで一緒にキャンプに行くこともあるそうです。まるで古くからの友人のような親しい間柄に、家を建てた後も永く続く関係って素敵だなあとしみじみ感じた一日でした。(記：広報 吉川)



設計：しまだ設計室／施工：相羽建設
撮影取材：伊藤・吉川 ainoha/バックナンバーはこちら→<http://aibaeco.co.jp/photo/ainoha/ainohabackno/>



3 暮らしの工夫



1: 家族共用のスタディスペース。2: ダイニングテーブルは食卓や勉強机としても使えます。3: スタディスペースと階段をつなぐ小窓。4: 将来2部屋に仕切ることができる子ども部屋。

▲ 家族の居場所

2階リビングを中心としてつながる、家族それぞれの居場所。各部屋を完全個室にせず、視線を少しずらした設計や家具で仕切ること、ほどよい距離感で過ごせる空間に。兄弟が共有で過ごす1階の子ども部屋は、ゆくゆくは真ん中をベッドで仕切って2部屋にすることもできます。



家に飾られた子どもたちの作品。整理整頓もばっちり!

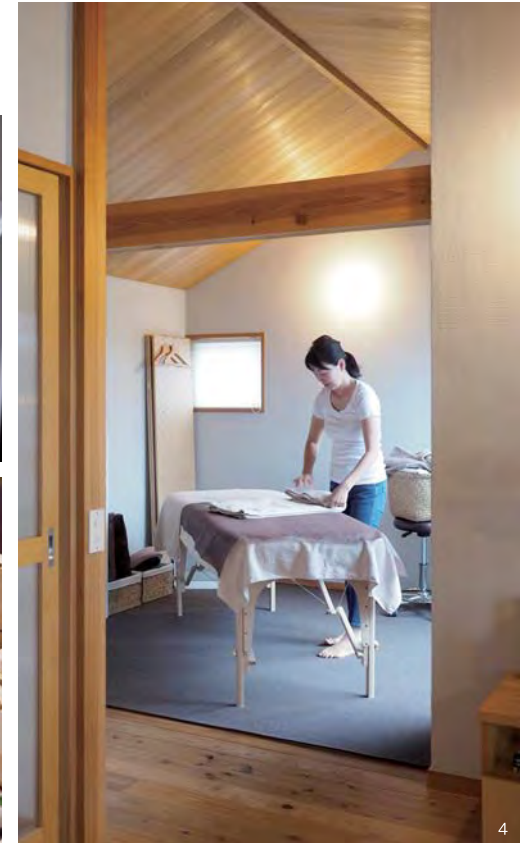


自宅に アロマサロン

家の一室を改装した、奥様自ら施術をするアロマテラピーサロン（2018年4月にオープン）。自宅の利点を活かして庭には精油の原料となるハーブ類（観覧用）も植えられていました。「これからサロンが生活の一部になっていったら良いと思います」と笑顔の奥様。

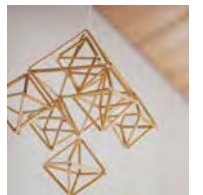
*サロン情報について詳しくはP.16にてご紹介しています。

1: 精油を入れる木の箱。2: 庭から摘んで綺麗に飾られた白いアジサイ。3: 奥様おすすめ精油とアロマオイル。その日の気分や体調にあわせてブレンドします。4: アロマスペース。



取材後記

びっくりするほど元気いっぱいの子供さんたちと、それをやさしく見守るご主人と奥様。とっても仲が良くて理想的なご家族だなあとほっこりしました。そして家を建てるときに、なんとなく考えていたという自宅アロマサロンを早くも実現するという、奥様の行動力が本当に素敵でした!家は生活の場としてだけでなく、少しだけ外にひらくことでより魅力的な場所になるのだと改めて感じました。(記: 広報 吉川)



設計:しまだ設計室(島田貴史) <http://kazunoki.com/>
 施工:相羽建設/撮影取材・編集:伊藤・吉川
 ainohaバックナンバー <http://aibaeco.co.jp/100story/life/>

